

(別紙4)

2022 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0895600070		
法人名	医療法人社団 白帆会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 メディカルホーム きらら		
所在地	小美玉市小川1853-1		
自己評価作成日	2022年7月31日	評価結果市町村受理日	2022年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=0895600070-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	2022年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の小川南病院から100メートルのところと位置し、24時間体制で医師及び看護師が病院内に勤務しており、緊急時の対応は万全である。また小川南病院との連携を図り健康管理を行っている。同法人内の作業療法士・理学療法士によるリハビリテーションをサービスケアとして実施し、入居者様の認知症の進行を緩和し、生活能力を向上させることにより、出来る限り自立した日常生活を安心して送ることができている。地域交流の一環として、月2回程度のボランティア様を招いての活動を行い、年1~2回のきらら会(家族会)を開催する事に力を入れている。しかし今現在、新型コロナウイルス感染症予防のためにボランティア様による行事、きらら会(家族会)は行っていない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であり、医療面での支援が充実していることは、利用者、家族、職員の安心にも繋がっている。豊かな自然に囲まれ、五感で季節を感じるができる環境である。職員は『利用者のペースで』『家族のように』などの理念を理解した上で支援にあたり、振り返りを行いながら自己啓発に努めている。コロナ禍で家族との面会に制限があり、利用者の家族に会いたい、家に帰りたいという思いを叶えることは難しいが、職員が丁寧に説明し、代替え策を考えて取り組むなどの配慮をしている。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、職員全員で理念を提唱し、実践するようこころがけている。忘れる事無く実践出来るよう、ネームプレートに理念を挟み持ち歩いている。	理念を事務所等に掲示している他、名札の裏に携帯し、ミーティングでも唱和している。家族的と馴れ馴れしさの分別をつけ、職員のペースではなく利用者のペースでことが進むよう、理念をよく理解した支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内に設置している気動車を開放しており、地域の方々が気軽に来られる。毎月、地域のボランティアを招いて交流を図ったり、空の駅「そらら」や四季健康館などへ積極的に出かけている。今現在は実施はできていない	コロナ禍でお祭りなどのイベント開催やボランティアの来訪が中止になっており、地域との交流は滞っている。散歩に出かけても、田んぼに囲まれた道である為、近隣の方に会うことは少ない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内で、広報誌「メディカルニュース」を3ヶ月に1度、年4回発行し地域に情報を発信している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今現在は書面報告となっている。利用者様の家族の希望・委員からの意見を取り入れ、サービスの向上に活かしている。委員の方にボランティアを紹介してもらった時には、実際に見てもらったり、画像に撮り後日見ていただき、意見をもらい次回に活かすよう努めている。	書面での開催となっており、活動報告・行事予定・イベント時の利用者の写真・身体拘束適正化委員会報告などを送付している。市からは報告に対するコメントが届き、改善に活かしている。議事録を作成しているが、運営推進委員以外の家族には報告をしていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修や会合(リモート)に参加し、ケアサービスの報告・相談などを行い市との連携を図っている。電話やメールにて情報交換や相談が行えている。	市からの事務連絡、研修通知等はメールや郵便で届いている。介護保険の更新申請や処遇改善支援金支給の相談に出向いたり、生活保護受給者の支援などを通し、行政各担当課とは良好な関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で見守りを行い、施錠や拘束は行っていない。外に出たがる利用者に対しては、散歩の時間を作ったり、犬との触れ合いの時間をつくる。玄関には開閉感知チャイムを付け施錠は行わない取り組みをしている。	身体拘束に関するマニュアルや様式を整備し、3ヶ月毎に適正化委員会を開催、拘束の実態を把握している。ベッド柵使用、布団に鈴をつける利用に関しては家族の同意を得ており、経過観察やカンファレンスを実施して、適正に状況を判断している。立ち上がることで危険が生じる利用者は、職員で情報を共有し、細心の注意を払って見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で話し合い、利用者様の精神状態・身体状態を観察し利用者様の変化を察知するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、活用が望ましい場合は利用者様やご家族様に制度の説明を行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項について説明を行い、介護度によって利用料金が異なる事や季節によって光熱費が変わる事など丁寧に説明を行っている。納得して頂けるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等の面会の際に、生活の様子を報告し、要望等がある場合には、個別プランに活かしている。	オンライン面会も可であるが、窓越しでの面会を希望する家族が多い。毎月の請求書に個人ごとに様子を知らせる手紙を添えている。家族には要望等伺っているが、特に要望は届いていない。利用者からは、家族に会いたい、家に帰りたいとの声が聞かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や、毎週月曜日にミーティングを行い、意見や情報交換を行っている。連絡ノートでの情報の共有にも務めている。	毎朝のミーティングで活発な意見交換がなされている。各種情報や報告事項は、口頭や連絡ノートを活用して、職員全体に周知している。現在、除湿器購入の希望がでており、管理者が検討中であることも職員は把握できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングなどで直接意見を聞いたり、個人面接を行い、職員一人一人が向上心を持って生き生きと働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員とよく会話し、困りごとなどの相談をしている。積極的に研修等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の地域密着型施設での研修を行いネットワークを築きながら勉強し、サービスの質の向上や交流、意見交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様ご本人の要望を聴き、出来る限り希望に沿ったプランを立案し、安心かつ安全に生活して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	きららの見学をしていただき、面談、入所時に何度もご本人や家族と話し合い詳しく要望を聴き、安心して入所して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活を継続し、利用者様やご家族様の要望を取り入れて、最善の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に食べたり、共に楽しむ時間を作り一緒に生活している事を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度は手紙を送り、日々の生活や身体の状況を報告している。面会時には要望や利用者様の状態を報告し、ご家族様の協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や馴染みの人との外出も出来るように努めている。家族や友人の面会時には、ゆっくり過ごしていただけるよう心掛けている。しかし今現在はコロナウイルス感染予防対策として面会は窓越し及びオンライン面会となっている	利用者、職員ともに入れ替わりが少なく、家族のような関係でホームが馴染みの場所になっている。テレビやチラシを見て、食べたい物などの購入希望の声があがる。1回に3つまでの希望を聞き、職員が買いに行く。ホームで購読している新聞を読む方、乳製品配達を継続している方がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションが困難な場合には、職員が間に入り橋渡し出来るように配慮している。席の配置を考える。公平な声掛けを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る事、出来ないことを把握しながら声かけし、一緒に行事に参加できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向が把握出来るよう、日々の行動の観察やコミュニケーションを大切にしている。利用者様が望む生活が維持できるよう支援している。	家族に会いたいとの声に職員が丁寧な説明を繰り返す。外食の要望を受け、天丼や寿司などをテイクアウトで提供した。コミュニケーションがとれにくい方は表情で判断する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から、今までの暮らしを聞き、日々の生活の中からも把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	側に寄り添った会話やレクで、利用者様の変化や出来る事の把握をし、可能性を見出す。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で多くの発見があり、出来る事が見つかる。本人や家族、職員の意見に声を傾け、アセスメントを行いプランを作成している。	計画作成者が家族や職員の意見を聞いてプランをたてる。ケアカンファレンスや担当者会議でモニタリングを行い、次の計画につないでいる。支援内容には、本人・介護者・看護師・リハビリ職員などの具体的な役割も計画されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを申し送りし情報の共有を図っている。個人日誌には、ドクターやOT、PT等からの記録もあり、健康状態やリハビリの内容も把握できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応えられるよう、日々寄り添った支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インフォーマルな資源も含めて、情報収集に努め、個々の状況に応じて活用を行っている。地域のボランティアに来所してもらう機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の意向を第一に、安心して医療が受けられるよう病院との連携を図っている。法人以外の病院でも受診できるよう紹介や受診の支援を行っている。	母体病院がかかりつけ医であり、職員が付き添って受診する。家族には毎月の手紙に受診結果を記載して報告する。必要に応じて、担当医から直接家族に説明を行っている。家族へ連絡したことは、支援経過に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と常に情報交換を行い、利用者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はお見舞いに行き、病院関係者と情報交換に努めている。退院の際はスムーズに日常生活に戻れるように情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を大切に話し合いの機会を作っている。十分に話し合って方向性を決めていくようにしている。主治医との相談支援に取り組んでいる。	看取りは行ないことを契約時に説明している。年に1回延命治療や緊急時の対応について意向調査を行っている。重度化した場合には、医師の判断により家族と話し合い、方針を決定している。職員は、看護職がいない中で看取りを行うことに不安はあるが、最期までここで過ごしたいとの思いを大切にしたいとも感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会などに参加して、知識や技術の習得につとめている。急変時にも対応できるようにマニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	年2回、消防訓練を実施し夜勤帯を想定しての訓練も行っている。地域の方にご協力をいただき、緊急連絡先を事務所に掲示させていただいている。	年2回の避難訓練では、駐車場へ8分程度で避難できている。災害別マニュアルを整備している。消防署とは密に連携し、避難経路を確認している。非常口に段差がなく、車いすでも安全に避難できる。最近停電があり、不足した備蓄品を買い出しに行く予定。発電機を装備し、毎月点検をしており、スムーズに使用することができた。	備蓄品や持ち出しグッズについて、リストを作成するなど可視化の検討を期待したい。散歩時に避難を意識したり、日常生活を訓練の機会とするような取り組みにも検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に寄り添いその方に合った言葉かけや対応を心がけている。周囲との調和も考えながら気持ちよく過ごせるようにしている。不穏時には落ち着くまでそばに居て話を聞いている。	トイレ使用時のドアや入浴時の支援など、プライバシーに配慮した支援を行っている。声かけは、利用者に合わせて呼び方をするなど、臨機応変に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を引き出せるように、職員から利用者様に沢山話しかけている。自己決定できるよう個々のスピードに合わせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩等、それぞれの好きなことが出来るよう支援を行っている。体調や気持ちに配慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を染めたり、結んだり希望する方には随時対応している。地域の美容室のスタッフに来てもらい散髪の支援をしている。散髪は今現在、コロナウイルス感染予防対策として来ていただいていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事形態で提供している。配ぜんや下膳など出来る事は一緒に行う。誕生日には、食べたい物のリクエストで献立を決めている。	食材業者を利用。週2回は職員が昼食を作ったり、テイクアウトメニューを楽しんでいる。季節の行事食を大切な習慣として取り入れている。きざみ、ミキサー食など利用者にあった形態で、安心して食事ができるよう支援している。介護度が高くなり、エプロンや介助が必要な利用者が増えてきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態を踏まえ、水分を取らない方には声をかけたり、好みの物を提供している(ジュース、お茶、牛乳等)。水分摂取量を日々チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔内チェックや義歯の手入れやブラッシングでの口腔ケア等、一人ひとりの力に応じた支援をしている。義歯のポリドント洗浄も定期的に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様それぞれの排泄パターンをチェックし、自尊心を傷つけないように配慮し、声掛け誘導をしている。Rパンツや尿取パットの種類も一人ひとりに合った物で対応し、失敗を減らしている。	トイレでの排泄を支援しているが、立位の取れない方は日中からおむつを使用し、適宜交換をしている。おむつ代は使用枚数に応じて変わり、家族の負担に心を痛めるが、清潔に保つことを優先する。便秘対策には下剤や浣腸など行い、気持ちよく生活できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をチェックし水分を摂るよう声かけている。繊維質の多い食事を心がけたり、乳製品を摂ってもらう。ラジオ体操やリハビリ、運動への参加を働きかけて一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方、午後入浴したい方…時間も決めずそれぞれのタイミングに合った対応をしている。拒否された場合には、無理せず時間をずらしたり、翌日に再度声をかけるようにしている。	週2日の入浴を基本に、拒否傾向の方にも工夫した働きかけを行う。やむを得ないときには清拭で清潔を保っている。ゆず湯など季節の湯を楽しみ、利用者の希望で入浴剤も使用している。リフト浴があり、安心と安全のため利用する方が多くなっている。洗濯室を別室にし利用者への危険回避が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な運動を行い、安眠を促している。疲れた時には自室ベッドで休んでもらったり、ご自宅で使用していた寝具を持って来て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人日誌に処方薬の記録があり、職員全員で共有し服薬管理を行っている。薬の変更があった時には、情報を共有できるように申し送りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、無理のない役割を持っていただいている。食器の準備や食器拭き。テーブル拭き、掃除、洗濯干し、たたみ等。好きな歌を唄ったり散歩したりし気分転換を図る支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により買い物へ出かける。花見、ぶどう狩り、外食など季節に合わせて外出している。しかし今現在はコロナウイルス感染予防対策として外出は行えていない。	コロナ禍で外出が難しくなり、普段は人通りの少ない田んぼ道を散歩している。人出が少ない時間に土手まで花見に出かけた。外出を好まない利用者も少なくないとのこと。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理能力に応じて、理容代や買い物支払いが出来るように支援している。お小遣い帳に収支を記入し、残金の確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。手の不自由な方や難聴の方には職員が援助している。家族へ宛て、定期的に手紙を送っているご利用者様、電話でのやり取りを楽しみにしているご利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように、季節の花や飾り付けを工夫している。蓄熱式の床暖房を採用し、ヒートショックがなく環境にも優しい。	天井が高く明るいホールには、利用者と一緒に手作りした作品が展示され、季節感を醸し出している。ホールでテレビや会話を楽しみ、新聞を読むなど、思い思いの時間を過ごしている。自室でテレビを見る利用者もいる。廊下には、イベント時の写真が飾られ、利用者の楽しそうな様子が並んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に移動し、思い思いに過ごして頂けるように気の合う方が近くに座れるよう席の配置工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や愛着のある物、本人が好きなものを身の回りに置き、心地よく過ごして頂いている。状況によりベッドやタンスの位置も配慮している。	居室には洗面台が設置され、レンタルのリネンを使用して清潔を保持している。布団を持ち込む場合は家族が選択をする。備え付けのタンスのほか、物入れを置いたり、テレビ・時計・家族写真・職員手作りのお祝いメッセージなど飾るなど、思い思いの部屋作りがされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、共用空間は手すりが配置され、自立した生活を送って頂けるよう頻回に声掛けを行い安全・安心な環境作りに努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 : メディカルホームきらら

目標達成計画

作成年月日 : 2022年12月13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について職員間で具体的に検討	・状況に応じた避難が出来るように取り組み、職員が身につける。災害時を想定し必要な備蓄品を準備する。	・水害 火災 地震などのマニュアルを確認しながら身につける。広域避難所やハザードマップの確認を話し合いや提示で、職員が共有する。 ・備蓄品などのリストを作成して管理する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。